

## 令和3年度以降の市民生活実感調査設問案の修正について

## 1 修正の方向性

## ① 主語を明確にする。

主語がない設問は、回答者が自分自身のことを答えれば良いのか、第三者的視点で答えれば良いのか判断に迷うため、適切な主語を補う。

## ② 単なる事実関係を質問しているように見える設問は、回答者の実感や印象を問うような言い回しにする。

「〇〇がある」等の言い回しは、市民の実感ではなく単なる事実関係を質問しているように見えるため、回答者の実感や印象を問うていることがより明確になる言い回しに修正する。

## ③ 「姿」の内容から乖離し過ぎないようにする。

設問の内容が「姿」と一致しないものや、部分的にしか反映されていないものについては、少なくとも「姿」の見出しに書かれている要素は設問に盛り込むよう修正する。

## ④ 設問の文字数は50字以内とする。

回答者が読みやすいよう、すべての設問が50字以内となるよう修正する。

## ⑤ 設問文中の例示は適切なものとする。

回答者に設問意図が正しく伝わるよう、設問文中の例示を適切なものに修正する。

## 2 修正案

資料2-2のとおり

## (参考) 前回委員会でお示しした設問作成の方向性

## (1) 令和元年度「政策評価制度に関する意見」で定めた考え方に沿って作成する。

- |  |
|--|
| ア 「みんなでめざす2025年の姿」一つにつき1問作成する。             |
| イ 回答者が第三者的な視点で直感的に判断できる形式に統一する。            |
| ウ 難解な単語や、回答者が判断に迷うような記載を避けるなど、分かりやすい表現にする。 |
| エ 語尾は基本的には「～である。」「～している。」、近年注目され始めた、       |

又は現状改善を目的とする場合は「～になってきている。」とする。  
オ 「京都」の使用は、京都らしさを直感的にイメージしやすい分野や、区域を限定した方が京都での生活実感としてイメージしやすい場合に限ることとする。すべて京都市民の生活実感であるため。  
カ 「誰もが」「あらゆる」「ひとりひとりが」など、100パーセントの達成を求める表現はしない。

**(2) 次期「姿」が現「姿」とほぼ同じ内容である場合は、現行の設問を引き継ぐ。**

次期基本計画（案）における「姿」の内容が現基本計画から大幅には変わっていないものについては、現行の設問を引き継ぎ、引き続き市民実感の変化を追いつけることとする。

ただし、現行の設問の回答率が低いなど、市民に分かりにくい表現になっていると考えられるものについては修正を行う。

**(3) 設問の文字数は概ね 50 字以内に抑える。**

アンケート調査票のページ数が多くなると回収率が低下する恐れがあるため、1問当たり概ね 50 字以内を目安とする。

**(4) 「姿」の内容から乖離し過ぎないようにする。**

市民が答えやすい設問にする必要がある一方で、「姿」の主旨から大きく乖離したものは当該政策・施策を評価する設問としては不適切であるため、分かりやすさと正確さのバランスに留意して作成する。